

2011 年度後期 「教養ゼミナール」 受講生アンケート結果

2011 年度後期に開講した「教養ゼミナール」各クラスの最終授業にて、受講生にアンケートを実施いたしました。アンケートの集計・分析結果を報告します。

1. 実施クラス数・回答者数・アンケート形式

- ・2011 年度後期開講「教養ゼミナール」18 クラス中、15 クラスで実施。
- ・アンケート実施 15 クラス 受講登録者数 234 名中、188 名回答（回答率 80.3%）
- ・無記名（学部・回生は記入）、全 3 問の自由記述形式
- ・自由記述形式で実施したので、似たような意見をまとめてカウントし、集計を行った。

設問①「教養ゼミナール」をどこで知りましたか？なぜ受講しようと思われましたか？

設問②学部や回生が異なる学生が集まった「教養ゼミナール」でしたが、他の授業と比べてどのような感想を持たれましたか？その他、授業の感想をご記入下さい

設問③「教養ゼミナール」を受講したことで「身についた」「成長した」と感じる部分がありましたら教えてください

2. アンケート結果

設問①-1「教養ゼミナール」をどこで知りましたか？

コメント	コメント数
オンラインシラバスを見て	55
口コミ（友人・先輩など）	36
時間割表	22
教養ゼミナールHP	21
学内メール	14
チラシ（ガイダンス配布・掲示）	14
履修要項・登録要項	13

- ・「口コミ」と回答した学生が予想外に多かった。「先輩から良い授業と紹介されたので」「友達が昨年受講して勧められたので」といった回答が多い。地道ではあるが、良い授業実践を積み重ねることが「教養ゼミナール」の学生認知度を上げていく一番の近道なのではと考えられる。

- ・アンケートを実施した際の学生の声を聞いていると、「こうして振り返ることで他にはない特徴のある授業であることがあらためて実感できた」「友人や後輩に勧めてみる」といった声が聞かれた。最終授業でこうしたアンケートを実施することで、「教養ゼミナール」の認知度を上げる効果も期待できるのではないかと感じた。
- ・上記アンケートの結果のとおり、シラバス、時間割表、教養ゼミHP、学内メール、チラシ、登録要項と、学生が「教養ゼミナール」を知るきっかけは多様である。各媒体ごとに、学生へわかりやすく魅力を伝える工夫をしていくとともに、どの学部でも適切に広報を実施していただけるよう事務局が丁寧にフォローしていくことが重要である。2012年度開講に向けて、新たに以下の取り組みを行い「教養ゼミ」の広報を強化する

- ①基本担当者・事務局によるシラバス内容点検（わかりやすい表記の追求）、全クラスのシラバスへ「予備登録科目であること」「登録期間」「クラステーマ」を記載
- ②各学部の時間割表に「教養ゼミ」が予備登録科目であることを記載するよう依頼
- ③2012年度から新しく導入される「電子掲示板」を利用した広報の展開
- ④後期成績返却ガイダンスに加え、新入生オリエンテーションでのチラシ配布依頼
- ⑤「新入生スタートアップサイト」へ教養ゼミ紹介文を掲載
- ⑥各学部の登録要項へ登録方法の案内だけでなく、各クラスのクラステーマ・曜日・時間一覧を掲載してもらうよう依頼

設問①-2 「教養ゼミナール」をなぜ受講しようと思いましたか？

コメント	コメント数
クラステーマ・授業内容に興味があったので	97
教養ゼミのコンセプト※1に興味を持ったので	44
教養科目単位取得のため（単位取得が楽そうだから）	14（4）
担当教員を知っている・授業を受けたことがあるので	9
海外でのフィールドワークができるので	2
ゲストスピーカーの話が聞けるので	1
独特なフィールドワークがあるので	1
自学部（国関）の教養科目は専門的な科目ばかりなので全く違う分野の科目を受講したかった	1

※1 学部・回生が異なる学生が集まり、学生が主体となって学ぶ小集団の教養科目

- ・「クラステーマ」「授業内容」に惹かれて受講を希望する学生が圧倒的に多かった。「クラステーマ」「シラバス」の表現が、学生が興味を抱く表現・授業の魅力が伝わる表現とな

っているかという点が学生の授業選択のキーポイントになっていることが伺える。

- ・後述する設問②の結果とも関連するが、教養ゼミのコンセプトに期待して（興味を持って）受講する学生も多い。学部・回生が異なる学生が集まり、小集団で学びあう「教養ゼミナール」ならではの特徴を活かすためにも、講義中心の授業形式ではなく、ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションなどの“学生同士の学びあい”を中心とした授業実践とすることを、各クラスの担当者が意識して取り組むことが重要である。

設問②「教養ゼミナール」を受講した感想

コメント	コメント数
学習意欲が高まった 上回生（下回生）と学ぶことは自分のためになった	53
他学部生と学びを通じて視野が広がった 多様な物の見方があることを知った	52
意見交換が活発で興味深い（おもしろい）授業だった	42
学生が主体的に学ぶ授業は新鮮だった	22
少人数クラスで学べたことがよかった	18
普段では付き合うことのない新しい友達ができた	11
他の授業との差はあまり感じなかった	9
内容が専門的過ぎて難しかった・ついていけなかった	6
こうした授業をもっと展開してほしい (在学中1回しか受講できない制限を外してほしい)	5 (2)
他の受講生と仲良くなれなかった・クラスに馴染めなかった	5
他学部生との考え方の違いはあまり感じなかった	3
授業の準備が大変だった	1
人数が少なくてさびしかった	1
授業内容をよく確認して受講すべきだった	1

※マイナスの意見に色づけ

- ・学部・回生が異なる学生が集まる「教養ゼミナール」の狙いを十分に反映した結果となっている。1・2回生のコメントに「上回生と学ぶ機会は初めてでとても勉強になった（刺激を受けた）」という感想が多かったことから、回生横断型の科目のメリットが発揮できていたことが伺える。

- ・「少人数クラスで学生が主体的に学ぶ授業」へのニーズが高いことが伺える。
- ・少数ではあるが、「内容が専門的過ぎてついていけなかった」、「クラスに馴染めなかった」というマイナス面の意見も散見された。学部・回生が異なる学生が集まるゼミであることを前提に、どの学部・回生の学生も参加できる授業運営をしていただくよう注意いただくこと、受講生間のアイスブレイクの時間を授業序盤に十分とっていただくこと、の2点を留意していただくことで、こうした課題は解消できるのではないかと考える。今回の結果を2012年度担当者間で共有し、授業運営の参考としていただく。

設問③「教養ゼミナール」を受講して身についた点・成長した点

コメント	コメント数
プレゼンテーション力・議論する力	65
テーマに関わる専門知識	39
考える力	31
多角的な物の見方・考え方・自らの価値観を知った	23
調べる力・フィールドワークの手法	20
レポート・論文の書き方	10
グループで協力して作業を進めていく力	10
期待していたクラステーマに関わる力は身につかなかった	3
自ら学ぶ姿勢	2
常に問題意識を持つこと	1

※マイナスの意見に色づけ

- ・アンケート結果から概ね「教養ゼミナール」の到達目標が達成されていることが伺える。2011年度前期に全学で実施した授業アンケート「Q.最も高めることができたと思う能力」に対する結果も同様の結果となっている。
- ・2012年度も引き続き、各クラスで学生が主体となる授業を実施していただき、「教養ゼミナール」の到達目標を意識した授業運営をしていただくことを、科目担当者会議等を通じて共有していく。

【参考】＜教養ゼミナール到達目標＞

- ①自分の専門を超えて、複眼的で多面的なものごとを理解し、考えることができる。
- ②専門を越えた学生同士で共同作業を行うことにより、自らの専門への自覚を高めるとともに他の専門の特色と意義を理解する。
- ③主体的に学ぶことと共に学ぶことの意義と方法を身につける。